

**難所を乗り越え敦賀と繋がる  
新北陸トンネル(大桐・葉原)貫通式 11月27日**



令和5年春の敦賀開業に向けた北陸新幹線の新北陸トンネルの貫通式が行われました。大桐工区と葉原工区それぞれで貫通の儀、貫通点通り初めの後、関係者らが集まり一斉に万歳三唱をして祝いました。国内6番目の延長となる約19.8kmの新北陸トンネルは令和3年2月完成予定です。

**身の回りの困りごと…あるある！  
河野小学校行政相談出前教室 12月4日**



町の行政相談委員と総務省福井行政監視行政相談センターによる行政相談出前教室が河野小学校6年生の教室で開催されました。行政の仕事や行政相談事例などの講義の後、身近に感じる困りごとについて考えて地図上に表しました。児童からは、道路や野生動物の問題など活発に意見が出されました。

**骨盤を整えて軽い体に☆  
男女ネットワーク団体相互交流会 12月7日**



冬場の健康づくりと各団体の交流を目的に交流会を開催し、骨盤ボディメイクインストラクターの小豆澤かおり先生から、骨盤を整える体操や体が軽く動くようになるコツを指導いただきました。10団体から参加した会員約80名は、楽しく体を動かしながら交流を深めました。

**地元を盛り上げたい  
青年交流事業第3回交流会 11月28日**



今庄地区公民館に町内の若者が集まり、青年交流事業「交流会」が開かれ、お好み焼きパーティーとイベントの企画をして楽しみました。次回は、2月8日に開催される「たくらかまくらまつり」で、出店や雪を使ったライトアップを企画しています。ぜひ一緒に楽しみましょう！

**夢を追いかけて  
河野中学校特別授業 12月5日**



越前市出身で国体とアジア大会2連覇経験の自転車ロードレーサー、中島康晴選手が河野中学校を訪れ、全校生徒に特別授業を行いました。中島選手は、自転車との出会い、挫折、夢を持つ楽しさ、進化中の夢、中学時代の友人への感謝などを熱く語り、「今できることを全力で頑張ってください」とエールを送りました。

**オープン30年目を迎える  
今庄365スキー場安全祈願祭 12月11日**



今シーズンの安全と安定したスキー場運営、また自然の降雪を祈願して安全祈願祭が行われました。指定管理者である㈱マックアースの古谷正之取締役は「昨年は記録的な少雪で、厳しい年になりましたが、今年の実績で2年前を超える来場者10万人を目指します」と挨拶しました。

**体験を通して郷土愛を育む  
今庄小学校つるし柿づくり 11月14日**



今庄小学校6年生児童が澤崎信雄さん(孫谷)の協力により、澤崎邸でつるし柿づくり体験を行いました。約500年前に伝来したルーツやつるし柿の生産工程と特徴を聞きながら、皮むき工程を体験しました。児童は、丁寧に皮をむいた柿を縄につるし終えると、満足げにいぶし炉へ運びました。

**ホトケの知恵で被害を防ぐ！  
消費者のつどい 11月17日**



南条保健福祉センターで消費者のつどいが開催されました。愛知県の泰岳寺副住職である泰丘良玄氏を講師にお迎えし、ホトケの智慧でだまされない心構えの講演、越前警察署署員による特殊詐欺の寸劇や安全運転サポート車の試乗体験があり、安心安全に暮らせるための情報満載の一日となりました。

**みんなでなわとびを楽しもう！  
南条小学校なわとび講習会 11月20日**



ダブルダッチの世界大会で優勝経験のある「合同会社NICO」代表天野陽介氏による南越地教委連管内体育実技研修会が南条小学校で開かれました。午前中は5、6年生児童へのなわとび講習会も行われ、ダブルダッチに不安げだった児童も、慣れてくると回転して跳んだりして楽しそうでした。

**驚きとワクワクの体験  
町子ども会育成連絡協議会交流会 11月17日**



子ども会同士の親睦を図るため、今庄住民センターで「福井工業大学 科学実験キャラバン」体験・実験ショーが行われました。風の流れを見る実験や、マイナス19.6度の世界の体験、エコなスライム作りなど、3つの実験を通じて、科学の楽しさを身近に感じた一日となりました。

**観光ボランティアによる歴史・文化の発信  
旧北陸本線廃線跡を歩く 11月17日**



今庄観光ボランティアガイド協会主催の「旧北陸本線廃線跡を歩く」が開催され、近畿・中京方面から約470名の鉄道ファンが訪れました。国の登録有形文化財を活かし、旅行会社、地域団体等の協力を得て、県外からの多くの誘客を図り、南越前町の魅力を発信しました。

**新そばの風味やのどごしを満喫  
新そば収穫感謝祭 11月23日**



今庄そば道場で、恒例の新そば収穫感謝祭が開催されました。秋晴れに恵まれて、この日を楽しみにしていたそば愛好家や家族連れなど880人が県内外から詰めかけて、一時は行列ができるほどとなりました。来場者は新そばならではの香りや色・のどごしを堪能していました。